

尼北だより



学校通信 第460号
平成30年1月9日

尼崎市立尼崎北小学校
校長 都倉 功充

平成30年が明けました。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

年末年始は、家族でゆっくり過ごされたでしょうか。それとも、親戚や友人たちとにぎやかに交流を深められたでしょうか。新年を迎えると、気持ちも新たに、そして穏やかな中にもやる気が満ちてくるものです。3学期が始まり、子どもたちはいつも通りの笑顔と「おはようございます」の大きな声で登校してきました。14日間の休みの中で、様々な思い出をつくってきたのでしょうか。

節目に志を立て、進もう

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。これは、一年の始まりという大きな節目にしっかり目標や計画を立てましょうということです。日々生活している私たちですが、ときには立ち止まり自分と対話することはとても大切です。

竹は、節があるからこそ、強風が吹いてもしなるだけで、折れてしまわないのです。人も同じで、自分を見つめ反省することでしっかりとした節ができ、強くなるのです。これは、年のかわり目ばかりではありません。自分に悩み苦しんだときも、人生の節目になります。そして、節目で自分を見つめるとき、人と比べて劣っていることがあっても、そんなことは気にする必要はありません。しかし、これまでの自分と比べて今の自分が劣っていれば、それはしっかりと反省するべきでしょう。それができたら、自分の志を立て、前進あるのみです。

多くを学べるお正月

お正月には、日本の伝統文化を学ぶ材料がたくさんあります。その一つがおせち料理です。最近では、新しいメニューが出てきていますが、古くからあるものにはそれぞれに意味があります。例えば、以下のようなものです。

「くろまめ」・・・まめにくらし、働けるように→無病息災

「海老」・・・腰が曲がるまで長生きできるように→長寿

「栗きんとん」・・・きんとんは漢字で金団と書く→金運

「ぶり」・・・ぶりは成長と共に名前が変わる出世魚→出世を願う

「れんこん」・・・穴がたくさんある→先の見通しがよい

また、お雑煮は、地方によって白味噌、すまし汁、赤だしなど様々であるうえに、具材もいろいろです。それらを知るだけでも、日本を知ることにつながります。これからの社会はますます国際化が進みます。新学習指導要領では、3年生から外国語活動が実施されます。その新しい流れには乗っていかねばいけません。まず自分たちの国や文化のことをしっかりと学ぶこともおろそかにしてはいけません。

3学期は、6年生で50日、1～5年生で52日しか学校へ来ません。残り少なく限られた日々の中で、しっかりと学び、しっかりと自分を成長させ、卒業や進級をむかえてほしいと願っています。

